特集 「学んだ日本語を使って、楽しくスピーチ」

Special Issue

～外国人スピーチコンテストで相互理解～

市内の日本語講座などで学んでいる外国人が日頃の成果を発表します。

外国の人が日本へ来てまず困ることは言葉がわからないことです。言葉がわからないと日常の生活にも不安や不便を感じるでしょうし、取り残されたと寂しい気持ちになりがちです。

川崎市は各区に日本語学習の場があります。川崎市国際交流協会では、様々な機関で学んだ日本語の力試しの場として「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」を開催しています。年々出場希望者が増え、日本語を学習する皆さんの目標にもなってきています。昨年度は川崎市国際交流協会設立20周年記念大会として、2010年2月20日に開催され、17名の外国人市民が参加し、大変盛況でした。

「スピーチコンテストとの出会いが人生を変えました」

～障がい者支援の生き方～

2010年 第16回 市長賞 受賞者 ワイディア・バクルさんに聞く

Interview

インド出身 2008年3月、ご主人の長期出張に伴い来日。川崎市内の外語ビジネス専門学校で日本語を学んだ後、川崎市国際交流協会や中原市民館主催の「日本語教室」で、経済や文化、教育制度なども学ぶ。2010年2月帰国。現在NPO「ケールガル（遊びの家）」でボランティア活動中。

Q：スピーチコンテストに出場しようと思ったきっかけは？

A：中原市民館の日本語教室に通っていたとき、先生にコンテストを紹介され、「是非参加してほしい」と勧められました。2年間日本語を勉強していたので、日常会話には自信がありましたが、日本語でスピーチができるかどうか半信半疑でした。その時、主人も応援してくれましたので参加することにしました。

Q：どんな事を伝えようと思ったのですか？

A：主人から勧められた「五体不満足」（乙武 洋匡著）は、表紙の写真・乙武さんの笑顔がとても印象的でした。私が今まで読んだ本の中で一番難しかったけど一番面白く、私に多くの事を教えてくれました。乙武さんの強い精神力、ご両親や先生方や友達の協力、日本社会の障がい者に対する態度や制度などを多くの人に伝えたいと思いました。

そして、インドのスラム街に住む足の不自由な女の子にどんなことができるかを考え、友達とカンパし合って車椅子をプレゼントしたことをお話しました。障がい者本人のやる気と周りの人々の応援が相まって素晴らしいことができるということが一番伝えたかったことです。

まだ伝えたいことがたくさんあって、日本語で短いスピーチにおさめるのに少し苦労しました。

▲ケールガルの子ども達と

Q：帰国後インドでどんな活動をされていますか？

A：友人が経営するNPO「ケールガル（遊びの家）」で、いろいろな事情で学校に通えない子どもたちのために、教育プロジェクトを担当しています。

日本語を勉強しているインドの友達に「五体不満足」の本を読んでもらいました。読んだ人は皆、障がい者に接するときの日本人の態度について大いに勉強になったと言います。いつか私たちの地域の言語に翻訳された「五体不満足」を多くの人々に読んでもらいたいと思っています。

これからもNPOでボランティアをしながら、気に入っている日本の文化に触れ、もっと日本語を勉強して、日本人の友達と交流を続けたいと考えています。

■講評 審査委員長 関口明子氏 ～わかりやすい日本語・ユーモアあふれるスピーチ～

当日のコンテストの一番の特徴は、会場が終始笑いに包まれていたことです。ずっと笑い通しで、こんなに楽しいスピーチコンテストはなかったのではないかと思いました。出場者も会場の皆さんも楽しんでいらっしゃったようです。ユーモラスな司会も会場をやわらげるのに一役買っていました。

インドのバクルさんは、美しい民族衣装に身を包み、とても分かりやすい日本語で話し、障がい者への想いが会場によく伝わりました。心から障がい者を何とかしたいという気持ちが見え、心の叫びとして自分の言葉で訴えて説得力がありました。日本の福祉に関しては、やさしい制度がたくさんあると言っていただけました。格調高い構成、発音、スピード、心の叫び、すべて素晴らしいスピーチでした。

川崎商工会議所会頭賞のシンガポールのウンさんは、ご自分の言葉で、構成の仕方が最初から最後まで「武士道とは何か、私にはわからない」と自問自答することで、私たちを引っ張って行ってくれました。結論として、「試合のときに何回も倒れても、また立ち向かっていく、これが武士道の精神なのではないか」と持って行くところがすばらしかったです。

川崎市国際交流協会会長賞のミャンマーのクーさん、実際に介護をなさっての自分の気持ち、おじいさんおばあさんも社会での役割があるということを訴えていました。発音も素晴らしかったです。

ほかの皆さんも、構成力がよくユーモアがあり、新鮮な視点がよかったと思います。

■～私たちは期待する～ はげましのメッセージ

(社)国際日本語普及協会 地域日本語教育担当理事 **関口 明子**氏

年々充実していくスピーチ内容、日本語の表現力そして多彩な国籍。私はこのコンテストがしっかり川崎に根づき、外国の方々との共生の大きな牽引力になっていることを強く感じます。出場者はもちろんのこと、川崎市の国際交流協会をはじめとするこのコンテストを支えている方々の地道な努力に拍手を送りたいと思います。

外国人市民代表者会議 委員長 **エロック・ハリマー**氏

外国人にとって、日本語はけっして勉強しやすい言語ではないと思いますが、数多くの外国人が毎日一所懸命に日本語を勉強しています。ぜひ皆様の毎日の勉強の成果をスピーチコンテストで自信を持って発表して下さい。

学校法人カリタス学園 理事長 **クローデット・ベルニエ**氏

私は、来日して３年目に日本語スピーチコンテストにチャレンジしたことがあり、貴重な体験となりました。どうぞ皆さま、異なる言葉を通して、日本の文化に溶け込み、新たな視点で世界を見渡して下さい。

川崎商工会議所 理事・事務局長 **岩森 耕太郎**氏

スピーチコンテストで、人は一歩踏み込んだ体験に出会ったとき、感動をおぼえます。川崎商工会議所では、地域・国を超えた企業間の交流、人と人との出会いの場を創出し、そこで共有した感動を世界に発信してまいります。

川崎ライオンズクラブ 前会長 **鈴木　勝**氏

私どもと協会との結びつきは「日本語スピーチコンテスト」が始まりで、9年間協賛させていただいております。本コンテストの審査員はクラブ会長の重要な仕事となっています。昨年度は例年以上に盛大なコンテストになり、大変嬉しく思いました。参加者をお招きしてのクラブ例会は常に人気があり、出場者とメンバーとの懇親会は楽しい国際交流の場となっています。今後とも是非協賛を続けさせていただきたいと思います。

創作集団にほんご 代表 **浅野 陽子**氏

毎年、泣かされたり苦笑させられたり感激させられたり……。今年はどんな話が聞けるのかと楽しみに出かけます。発表者だけでなく、その友達や外国人を支える日本人の笑顔を見るのも、私の楽しみの一つです。

異文化の中で育った外国の方にとっては、日本の習慣で理解できないことがあったり、適応することが難しいことがあると思います。また、言葉がわからないため、お互いに誤解が生じてしまうこともあるでしょう。

日本語や日本の文化、習慣を理解してもらい、私達も異文化を積極的に理解しようとすることでよりよい共生の社会を創り上げていきたいものですね。日本語スピーチコンテストもその試みの一つです。

協会の“外国人の為の日本語学習に対する取り組み”は高い評価を受けています。自分の国でも取り入れたいという意見を聞くと、うれしく思い、そして、さらに期待に応えていきたいという気持ちになります。

（取材・編集ボランティア
青柳尚子・日地谷美樹・福地直子）

INFORMATION

ご来場をお待ちしています！

ただ今出場者募集中！ 〆切1月19日(水)

第17回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

2011年2月19日（土） 午後1時～3時30分

◎会場：川崎市国際交流センター・ホール（東急東横線/目黒線）元住吉駅下車徒歩10分

入場無料

審査の間は中原区で活躍のインユニティーの演奏も予定しております。お楽しみに！

また、出場者や来場者の皆さんが参加する交流会があります。ぜひお気軽にご参加ください。

なお、交流会は、事前の予約をお願いします。会費は当日受付でお支払いください。（500円）